

# 「この映画を作らないと次の人生に進めない」大川小卒業生がふるさとで映画上映 月命日に想う〈宮城〉



仙台放送では、東日本大震災の月命日にあたる毎月11日、震災で大切な人を亡くされた方にお話を聞き、その「想い」を伝えています。12月12日は、宮城県石巻市の大川小学校で当時6年生の妹を亡くした佐藤そのみさんです。震災から11年9ヶ月となった12月11日、佐藤さんは自ら製作した映画をその舞台ともなった古里、大川地区で初めて上映しました。

佐藤そのみさん

「おはようございます。よろしくお願ひします。お久しぶりです」

Q.荷物いっぱいだね

「はい」

石巻市の大川地区で生まれ育ち、現在は都内で暮らす会社員の佐藤そのみさん（26）。大学生だった3年前、震災後の大川地区を題材にした2本の映画を製作。12月11日、地元で初めて上映会を開くことになりました。

佐藤そのみさん

「授業参観の当日みたいな、たくさんの親に見守られる感じ。緊張します。失敗できない。でも楽しみです」

佐藤さんは中学2年生の時、大川小学校に通っていた当時6年生の妹・みづほさん（当時12）を津波で亡くしました。

佐藤そのみさん

「みづほとしかできないこと、みづほにしか話せないことだらけなので、今そういう存在がないので...」

児童74人教職員10人が犠牲となった大川小学校。同じ辛い時期を過ごした大川の人にも見てほしいと作った映画。古里で初めてとなる上映日は月命日に決めました。

佐藤そのみさん

「たぶん、みずほとか、ほかの子たちがこういう場所を裏で設定してくれてるのかなって思っているので感謝しています」

地域の人たちと一緒に作り上げる上映会。佐藤さんとは家族ぐるみで付き合いのある紫桃隆洋さんです。紫桃さんもまた、大川小学校の5年生だった次女・千聖さんを亡くしました。上映されるドキュメンタリー映画には紫桃さんの長女・朋佳さんも登場します。

紫桃隆洋さん

「11年過ぎて親としてもいろいろ辛いこともあったし、子供の気持ちを知ることにもなるし、私も（映画）まだ見てないので、きょうは楽しみに期待しながら見たいと思います」

震災から時が経つにつれ、地元の人たちと顔を合わせる機会は貴重なものになりつつあります。

「自分は裁判（大川小関連）もしているので、大川に暮らしていながら地元の人との関わり方が難しくなっていて、こういう形でみんなつながって、また昔の大川に戻っていくのかなって思いもするし、この映画がきっかけになってもっともっと広がってつながっていけばいいのかなって」

上映会にはおよそ200人が訪れました。

佐藤そのみさん

「よろしいですかね、そろそろ始めても」

1本目は劇映画「春をかさねて」。震災で妹をなくした14歳の中学生が、次々と訪れる記者やボランティア、同級生と接する中で、心が揺れ動く様子を描写。かつて佐藤さん自身が思い悩んだ経験が投影されています。

2本目は「あなたの瞳に話せたら」。佐藤さんなど大川の若者たちが、亡くなった友達や家族に対し、震災後に感じてきた思いや悩み、決意を打ち明けるドキュメンタリーです。

「千聖がいなくなつてから、私変わつたんだ。私が明るくなつて、みんなを楽しませなくちゃつて、だつて家族も親戚もみんな悲しい顔ばっかりなんだもん。きっと千聖だったらもっとみんなを楽しませたんだろうなつて、あの時の私は千聖が世界の全てで、いつも一緒にいる、どんなに学校で1人ぼっちでも千聖がいるつて思つていたのに、ぱつて一瞬で私1人にされてさ、神様をものすごくうらんでいるよ。何で連れてつたの？なんで会えないの？いつもみたいに『お姉ちゃん』って走つて抱きついで来てよ。まだ私の中にいる、あの頃の自分は毎日思つているよ。

また会えるときまで元気でね。世界で一番愛しています。そのみより

参加した人(大川地区で家族を亡くす)

「震災の発生から10何年も経つになかなか立ち上がりがれない進めないでいましたけど、きょう映画を見せていただいて、自分もこうして立ち止まつていられないっていう。本当に感動しました。感謝です」

紫桃隆洋さん

「いろんなことを思い出して本当に涙が止まらなかつた。（映画に出演した）朋佳なりに頑張つてる姿は分かっていたので、言葉として聞いたのは初めてだし、そういう部分も涙として私の胸に刺さつた」

東日本大震災の発生から11年9ヶ月。大川の人たちと過ごした月命日。

佐藤そのみさん

「改めて月命日って、今でも数少ない考える機会になる日であつて、きょうもそうなんんですけど、きょう大川でいろんな人が集まつて上映したことを亡くなつた方たちはきっとよく思つてくれてるんじやないかなと、そんな感じです」

「この映画を作らないと次の人生に進めない」

あの日とずっと向き合い続けた佐藤さん。新たな歩みを始めています。

佐藤そのみさん

「自分が他に表現できるものが、これを作るまでなかつたので、別の物を作れるようになりたいなつて、そんな感じですね」